

## 保証書

保証期間内に取扱説明書等の注意書きにしたがって正常な状態で使用し、故障した場合には、お買い上げの販売店に本書をご提示の上、修理をご依頼ください。

品名	オイルレスエアコンプレッサ	型式	AG-4578NTF
お買い上げ日※	年 月 日	保証期間	6ヶ月
お客様※	ご住所	〒	
	ご氏名	様	
	電話番号	- ( ) -	
販売店※	住所		
	店名		
	電話番号		

※印欄に記入のない場合は、無効となりますので、必ずご確認ください。

### 1. 保証期間内でも次のような場合には有償修理になります。

- ① 本書の提示がない場合。
- ② 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合。あるいは文字を書き替えられた場合。
- ③ 使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
- ④ お買い上げ後の落下、引越し、輸送等による故障及び損傷。
- ⑤ 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障及び損傷。
- ⑥ 一般家庭用以外（例えば、業務用の長時間使用、車輛、船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
- ⑦ リサイクル業者や、使用者等による再販など、当社の責任範囲を超える場合。
- ⑧ 日本国外での使用。

### 2. 本書は、再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

### 3. 本書は、日本国内においてのみ有効です。

発売元 **株式会社パオック**

〒955-0061 新潟県三条市林町2-5-21  
TEL:(0256)33-5574 FAX:(0256)33-5559  
URL <http://www.paock.co.jp>

E1136-Q 200470



# オイルレス エアコンプレッサ

OILLESS AIR COMPRESSOR  
型式 AG-4578NTF

## 取扱説明書

この度はオイルレスエアコンプレッサをお買い求めいただきありがとうございます。未長くと愛用いただくため、本取扱説明書をよくお読みいただき、必ず保管してください。

### もくじ

●はじめに	2	●サーモスタット	10
・オイルレスエアコンプレッサについて	2	●サーキットブレーカ	11
・仕様	2	●ご使用前に	12
●安全上のご注意	3	・準備	12
・ご使用前 △警告	3	・試運転	13
・ご使用前 △注意	4	・ワンタッチカプラソケットの取り付け	14
・ご使用中 △警告	5	●使用する	15
・ご使用中 △注意	5	・運転手順	15
・ご使用後 △警告	6	・使用するにあたって	16
・ご使用後 △注意	6	●作業を終了させる	17
●点検	7	・終了手順	17
・点検	7	●故障かな?と思ったら	19
●各部の名称	8	●保守と点検	20
・主要各部の名称	8	・保守と点検	20
・主要各部の名称と機能	9	・アンローディングバルブからのエア漏れ保守方法	21
●安全装置について	10	●エアツール適合表	22
・安全弁	10		

### 必要電源環境

延長コード：VCTF 2SQ×4C（4芯）  
プラグ、コネクタ（ソケット）：接地3P 20Aタイプ



◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

発売元 **株式会社パオック**

外観、仕様などは製品改良のため、一部変更することがありますので、ご了承ください。

静音タイプ

はじめに P2  
P6

点検 P7

各部の名称 P8  
P9

安全装置について P10  
P11

ご使用前に P12  
P14

使いかた P15  
P16

終了する P17  
P18

その他 P19  
P22

## はじめに

## MEMO

この度は **Agriculture** オイルレスエアコンプレッサをお買い求めいただきありがとうございます。いつまでも安全にお使いいただくため、ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、取扱上の注意事項、本機の特長、能力、使い方などを十分理解された上でご使用くださいますようお願い申し上げます。

## オイルレスエアコンプレッサについて

- ◆オイルレスエアコンプレッサは、各種エアツールの動力源となる圧縮空気を供給するための、空気圧縮機です。市販のエアツールを接続することで、様々な用途に使用することができます。  
例) 釘打ち、ステーブル止め、塗装、グリースガン、エアブラシ、空気入れ、汚れ落とし、噴霧作業等
- ◆本製品は、給油不要のオイルレスタイプです。オイル漏れの心配がなくメンテナンスも簡単、また、圧縮空気にオイルが混入しないため、クリーンな圧縮空気をエアツールに供給できます。
- ◆本製品は、レシプロタイプです。内部のピストンがシリンダ内を上下することにより、圧縮空気が作られます。

※作業の際は、必ず使用工具などの必要圧力・空気量等をご確認の上、用途に応じてお使いください。

※圧縮された空気に、気温により水分が発生したり、ホコリ等と一緒に吐出されることもあるため、電子部品等の清掃や乾燥には使用しないでください。

※用途以外のご使用は、重大な損害や事故の原因になりますので、絶対におやめください。

※品質改良のため、外観・仕様など一部変わることがありますので、ご了承ください。

## 仕 様

型 式	AG-4578NTF		最高使用圧力	約0.8 MPa	
定 格 電 圧	接地三極三相 200V Ⓢ		再起動圧力	約0.6 MPa	
電動機出力	3.3kW (1.1kW×3基)		タンク容量	78L (39L×2連)	
定 格 電 流	15A	13A	吐出口ねじ径	R1/4・Rc1/2	
定 格 周 波 数	50Hz	60Hz	作 動 音	約76 dB (静音チューブ取付時)	
流 量 (参考値)	0.1MPa時	420 L/min	450 L/min	サ イ ズ	約L105×D60×H80cm
	0.2MPa時	375 L/min	405 L/min	質 量	約105kg
	0.4MPa時	315 L/min	345 L/min	付 属 品	・Rc1/4ワンタッチ カプラソケット …… 1個 ・パイプシール(シールテープ)… 1個 ・取扱説明書 …… 1部
	0.6MPa時	255 L/min	285 L/min		
	0.8MPa時	195 L/min	225 L/min		

# エアツール適合表

## ■エアツールの選定について

コンプレッサの能力よりもエアツールの空気消費量が高いと作業が順調にできなくなります。コンプレッサの能力が低い（流量が少ない）機種は、待ち時間（充填時間）が長くなります。タンク容量が小さければ、使用可能時間は短くなります。

下表を目安にエアツールを選定してください。

※この表は目安です。エアツールによってはこの表の通りにならないことがあります。

※作業の際は、必ず使用するエアツールの使用圧力・空気消費量等をご確認の上、用途に応じてお使いください。

★大気圧換算：0.1MPa≒1気圧（大気圧）

エアコンプレッサ		AG-4578NTF		
仕様	最高使用圧力	約0.8MPa		
	再起動圧力	約0.6MPa		
	電動機出力	3.3kW		
	定格周波数	50Hz	60Hz	
	流量 (※参考値)	0.1MPa時	420L/min	450L/min
		0.2MPa時	375L/min	405L/min
0.4MPa時		315L/min	345L/min	
0.6MPa時		255L/min	285L/min	
0.8MPa時		195L/min	225L/min	
タンク容量		78L (39L×2連)		
エアツール	空気消費量 (目安)	使用判断		
エアインパクトレンチ (小型)	0.6MPa 約130L/min	◎		
エアドリル	0.6MPa 約140L/min	◎		
エアドライバ (強)	0.6MPa 約90L/min	◎		
エアハンマ	0.6MPa 約110L/min	◎		
エアカッター・エアニブラ	0.6MPa 約110L/min	◎		
エアグラインダ	0.6MPa 約85L/min	◎		
スプレーガン	0.4MPa 約70L/min	◎		
ブロワガン	0.4MPa 約60L/min	◎		
エアマイクログラインダ	0.6MPa 約30L/min	◎		
エアタッカ・フィニッシュネイラ	0.5MPa (単発使用)	◎		
エアグリズガン	0.6MPa (単発使用)	◎		
エアブラシ	0.2MPa 約20L/min	◎		
エアダスタ・ エアプレッシャーゲージ	簡易清掃作業、タイヤ・ゴムポート 等の空気入れ、空気圧調整など	◎		

◎：断続使用（最適）／△：断続使用（可）／×：使用困難

# 安全上のご注意

安全作業上、事故を未然に防ぐため、次に述べる注意事項をよくお読みの上、指示に従ってください。

本取扱説明書の注意事項は、「△警告」、「△注意」に区分されています。

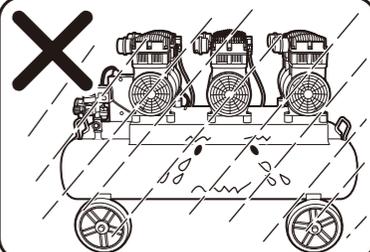
**△ 警告** この表示は取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。

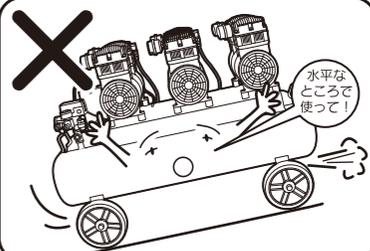
**△ 注意** この表示は取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、および物的損害の発生が想定される内容を表しています。  
なお、△注意に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重大な内容を記載しておりますので必ず遵守してください。

**ご使用前**
**△ 警告**

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みいただき、使い方を十分理解してください。
2. 作業はきちんとした服装で行ってください。  
・作業環境に応じて、ヘルメット、保護メガネ、耳あて、防じんマスク、手袋、安全靴等の保護具を着用してください。
3. 作業場の周囲状況も考慮してください。  
・雨の中で使用したり、湿った、または濡れた場所で使用しないでください。  
・可燃性の液体や、ガスのあるところでは使用しないでください。
4. ゴミやホコリの多い場所には設置しないでください。  
・加熱事故や異常磨耗の原因になります。
5. 風通しを良くするため、塀・壁面から30～40cm位離して使用してください。
6. 平らな固い地面を選んで設置してください。  
・不安定な場所に設置すると、本機が移動や落下、転倒して事故の原因になります。
7. 各部のボルトやねじにゆるみがないことを確認してください。  
・故障や事故の原因になります。
8. 使用電源は必ず接地三極三相200V<sup>Ⓟ</sup>でご使用ください。







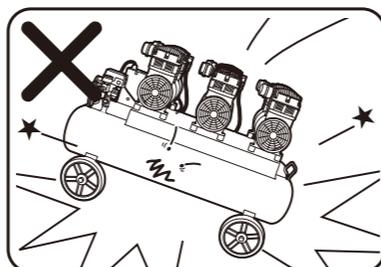
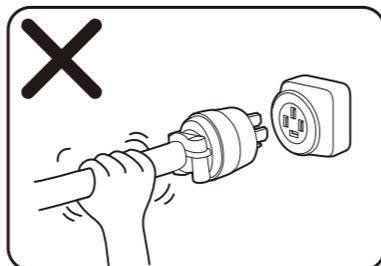
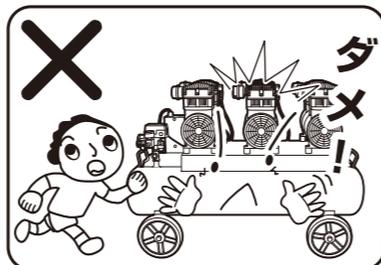
水平なところで使ってください！

# 安全上のご注意

## ご使用前

### 警告

9. 作業以外、作業場へ近づけないでください。
  - ・作業以外、オイルレスエアコンプレッサやコードに触れさせないでください。
10. 電源コードは乱暴に扱わないでください。
  - ・電源コードを引っ張ってオイルレスエアコンプレッサを移動させたり、電源から抜いたりすると、電源コードを傷め、断線・短絡（ショート）の原因になります。
  - ・電源コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。電源コード損傷の原因になります。
11. 電源コードや差し込みプラグは定期的に点検してください。
  - ・電源コードや差し込みプラグが損傷している場合は、すぐに交換が必要です。お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。
  - ・電源コードや差し込みプラグが傷んだまま使用すると、やけど・感電・火災などの原因となります。
12. 本機は大切に取り扱いってください。
  - ・転倒や落下により、エアタンクに亀裂が入るなど、破損する恐れがあります。
13. 本機の上に座ったり、重量物を載せたりしないでください。
  - ・破損や亀裂、変形の原因になります。
14. 不意な始動は避けてください。
  - ・差し込みプラグを電源に差し込む前に、電源スイッチがOFFになっていること、及びエアホースが接続されていないことを確認してください。



## ご使用前

### 注意

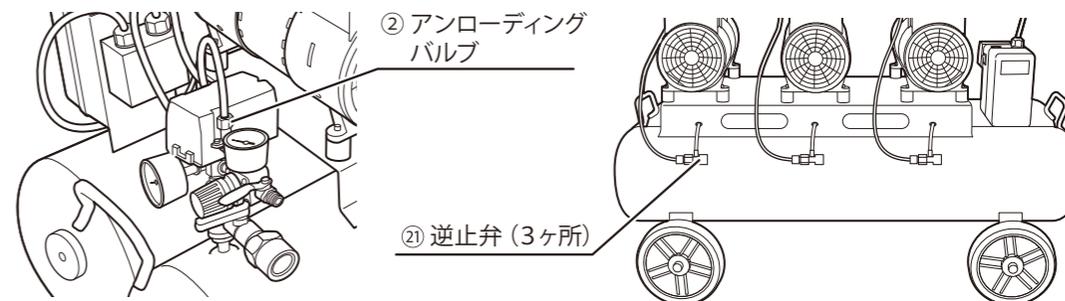
1. 作業場はいつも明るく、きれいにしてください。
  - ・暗かったり、散らかった所での作業は事故の原因になります。

# 保守と点検

## ■アンローディングバルブからのエア漏れ保守方法

### アンローディングバルブからのエア漏れ保守方法 ※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

アンローディングバルブは、モータが停止すると次の起動準備のため、配管内に残った高圧空気を数秒間排出します。空気の排出がいつまでも止まらない時は、**エア漏れ**です。アンローディングバルブの症状をご確認の上、メンテナンスを行ってください。



### ■アンローディングバルブの症状

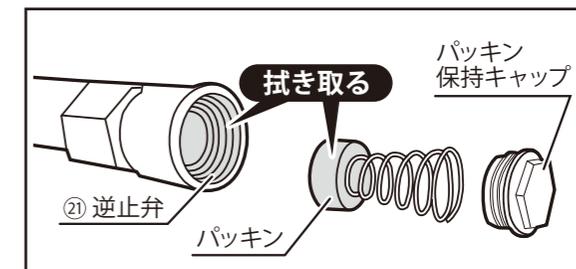
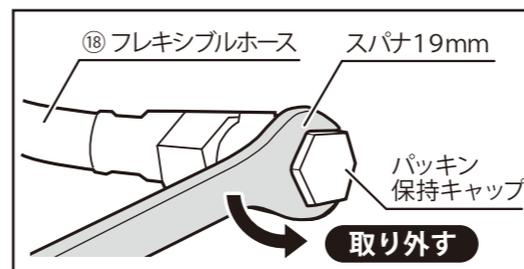
症状	原因	解決方法
モータ作動時には空気の排出はしていないが、モータ停止時に空気の排出が止まらない。	逆止弁にゴミが付着している。	逆止弁のパッキンを乾いた布で拭き取ってください。 → 下記【逆止弁の拭き取り手順】参照
モータ作動時にも空気の排出が止まらない。	アンローディングバルブの作動不具合。	お買い上げの販売店または発売元までご連絡ください。

### ■逆止弁の拭き取り手順 準備するもの：スパナ19mm、乾いた布



電源スイッチをOFFにし、差し込みプラグを電源から抜いてください。その後、必ずコンプレッサのエアタンク内の圧縮空気を全て使い切ったことを確認してください。

- ① 逆止弁のパッキン保持キャップをスパナ19mmで取り外してください。
- ② 逆止弁内のパッキンを乾いた布で拭き取ってください。
- ③ 逆止弁内側のパッキンが接触する箇所を乾いた布で拭き取ってください。
- ④ パッキンとバネを逆止弁に入れて元に戻し、パッキン保持キャップをスパナ19mmで取り付けてください。



# 保守と点検

※本機の性能を維持するため、定期的に保守・点検を行ってください。

- エアフィルタ(吸気口用)の点検・交換
- 保管について

## 保守と点検

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

### ■エアフィルタ(吸気口用)の点検

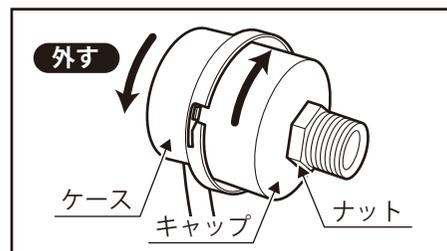
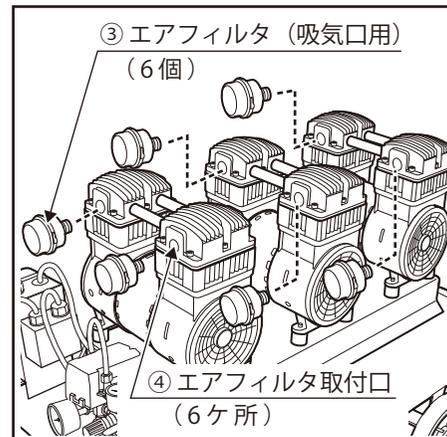
※点検の際は必ず電源スイッチをOFFにし、差し込みプラグを電源から抜いてください。

- ・エアフィルタ(吸気口用)は常に清潔にしてください。エアフィルタ(吸気口用)が汚れていると、空気量が減少し、エアコンプレッサの機能が低下します。
- ・エアフィルタ(吸気口用)が汚れている時は、以下の要領で清掃してください。

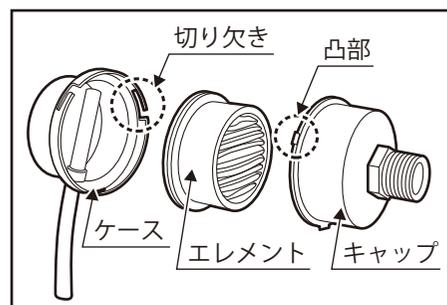
- ①エアフィルタを本体から取り外してください。
- ②キャップとケースは切り欠きと凸部で固定されています。図の矢印方向に回して外してください。

※外れにくい場合は、工具(ラジオペンチなど)で切り欠きを広げてください。

- ③中のエレメントの汚れをエアダスタやブロワなどの送風機で吹き飛ばしてください。
- ④汚れを吹き飛ばした後、再び取り付けて使用してください。



※本体からエアフィルタを取り外す際、ナットが空転する場合は、スパナを使用して取り付け・取り外しを行ってください。



### ■エアフィルタ(吸気口用)の交換

※エアフィルタの汚れが著しく、空気吸入量が減少し、エアコンプレッサの能力が低下した際には、新しいエアフィルタと交換してください。

※新しいエアフィルタを、エアフィルタ差込口に取り付けてください。

- エアフィルタは別売もございます。

#### ⚠注意

取り付ける際、エアフィルタ(吸気口用)にはパイプシール(シールテープ)を使用しないでください。使用中、空気と共にパイプシールの一部が吸い込まれて故障の原因となる恐れがあります。

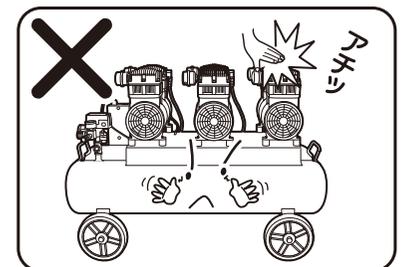
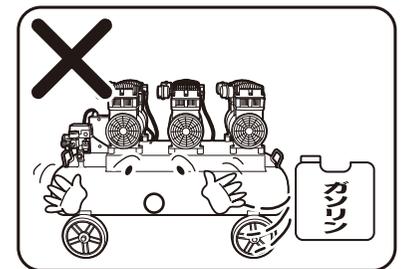
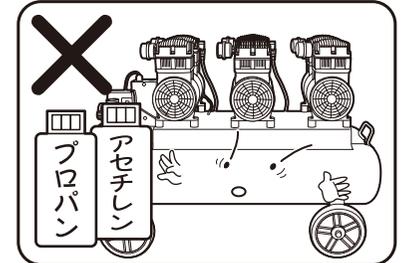
### ■保管について

- ・使用しない場合は、きちんと保管してください。
- ・乾燥した場所で、お子様の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
- ・長期間で使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、5分程度の運転を行ってください。

## ご使用中

## ⚠警告

1. 空気の圧縮のみに使用してください。
  - ・空気以外のガス(プロパン、アセチレン、酸素など)を吸入すると爆発する恐れがあります。
2. 人体等の吸入用には使用しないでください。
  - ・コンプレッサから吐出される空気は、人体等には絶対に使用しないでください。
3. 揮発性可燃物のそばでは使用しないでください。
  - ・引火または爆発の恐れがあるため危険です。
4. 箱の中や、狭い場所(密閉された車内など)では使用しないでください。
  - ・異常発熱を招き、故障・事故の原因となることがあります。
5. エアホースを接続する前に、エアホースとエアプラグが完全に固定されていることを確認してください。
  - ・固定が不完全だと、外れて事故の原因になります。
6. 開口部や、ファン部に異物を入れたり、近づけたりしないでください。
  - ・巻き込みなどにより、故障や事故の原因になります。
7. エア工具は、必ず使用空気圧力の範囲内で使用してください。
  - ・製品の寿命を縮めたり、故障や事故の原因になります。
8. 運転時、運転直後の金属部は絶対に素手で触らないでください。
  - ・空気の圧縮熱で高温になっています。やけどの恐れがありますので、本機の移動などは熱が下がってから行ってください。



## ご使用中

## ⚠注意

1. 本機の運転中に異常音が発生したり、安全弁の作動によるタンク内圧力の低下がみられた場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。

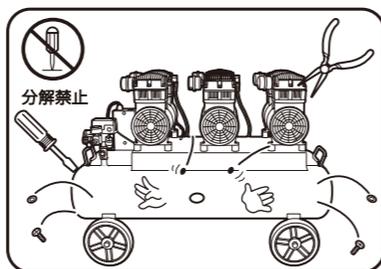
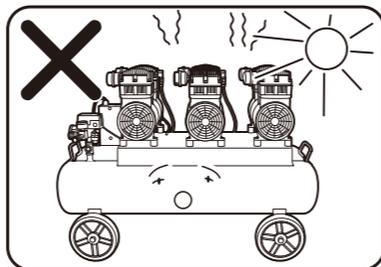
# 安全上のご注意

# 故障かな？と思ったら

## ご使用後

### 警告

- 電源スイッチをOFFにしてから差し込みプラグを電源から抜いてください。
- エアコックをゆっくりとゆるめ、エアタンク（2個）内の圧縮空気を全て抜いてください。次にドレンコックをゆっくりとゆるめエアタンク（2個）内のドレン（水）を全て抜いてください。
  - ドレンを抜かないと、エアタンクを傷める恐れがあります。
- ドレンと圧縮空気を抜く場合は、顔をドレンコック及びエアコック付近に近づけないでください。
  - ドレンや圧縮空気の排出によって失明や耳を傷める恐れがあります。
- エアタンク内の圧縮空気が全て抜けてから、エアホースを外してください。
  - タンク内に圧縮空気が残ったままエアホースを外すと、カプラプラグが跳ね、けがや事故の原因になります。
- 空気充填のまま長時間直射日光に当てたり、高温になる場所に放置しないでください。
  - エアタンク内の圧縮空気が更に高圧になり、エアタンクが破裂する恐れがあります。
- 本機を分解、改造しないでください。
  - 事故やけが、故障の原因になります。
- 損傷した部品がないか点検してください。



## ご使用後

### 注意

- 本機は、大切に手入れをしてください。
  - 運搬時の落下防止のため、ハンドルは常に乾かして、きれいな状態に保ち、油やグリスがつかないようにしてください。
- 環境保全のため、排出ドレンはきちんと管理してください。
  - エアタンク内の排出ドレンは、トレイに受けて排出するよう管理してください。
- 使用しない場合は、きちんと保管してください。
  - 乾燥した場所で、子どもの手の届かない所、または鍵のかかる所に保管してください。
  - 落下の恐れがある所は避けてください。
  - 長期間ご使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、5分程度の運転を行ってください。

**作業終了後は、毎回必ずエアタンク（2個）内の圧縮空気とドレン（水）を全て抜いてください。ドレンを抜かないと、エアタンク内にサビが発生し、エアタンクの寿命を縮める原因となります。**

●次のチェックリストに沿って点検を行ってください。

症状	原因	解決方法
エアコンプレッサが作動しない。	①差し込みプラグが外れている。	①差し込みプラグを正しく電源に差し込んでください。
	②サーモスタットが働いている。	②一度電源をOFFにし、モータが十分に冷えた後、再度電源スイッチをONにしてください。 <b>P10</b>
	③サーキットブレーカが働いている。	③電源スイッチをOFFにし、差し込みプラグを電源から抜いてください。3～5分待った後、配線ボックス上部のねじをゆるめ、カバーを開けます。配線ボックス内の復帰ボタンを押してください。 <b>P11</b>
圧力が上がらない、圧力が低い。	①エア漏れ。	①各部の締め付け等を確認してください。
	②エアフィルタ（吸気口用）が汚れている。	②エアフィルタ（吸気口用）を清掃してください。汚れが著しい時は、新しいものに交換してください。（別売もございます。） <b>P20</b>
	③エアタンク内にドレン（水）が溜まっている。	③ドレンコックよりエアタンク内のドレン（水）を抜いてください。 <b>P12・18</b>
	④安全弁からのエア漏れ。	④安全弁の交換が必要です。お買い求めの販売店または発売元にご連絡ください。 <b>P10</b>
アンローディングバルブからのエアの排出が、モータ作動時には排出していないが、モータ停止時にいつまでも排出が止まらない。	①逆止弁にゴミが付着している。	①逆止弁のパッキンを乾いた布で拭き取ってください。 <b>P21</b>
アンローディングバルブからのエアの排出が、モータ作動時にも排出が止まらない。	①アンローディングバルブの不具合。	①お買い求めの販売店または発売元にご連絡ください。

※これらのチェックを行っても正常に作動しない場合や、不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または発売元までご連絡ください。お問い合わせや、ご連絡がないまま直接発売元に修理品などを送付されても、処理、対応ができない場合がありますので、ご了承ください。

# 作業を終了させる

## ■エアタンク内のドレン（水）を抜く

### 終了手順

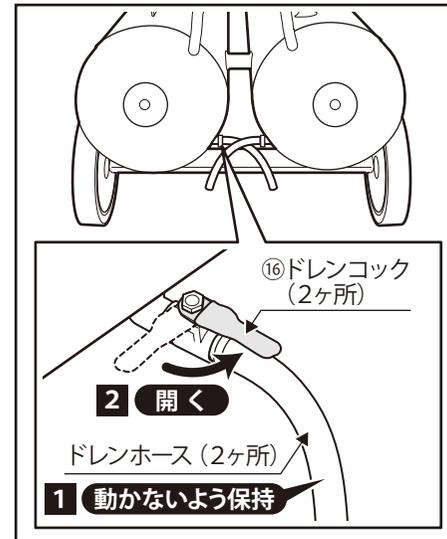
※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

#### ■エアタンク内のドレン（水）を抜く

※必ずエアタンク内に圧縮空気が入っていないことを確認してください。

エアタンクの下部に付いているドレンコック（2ヶ所）からドレンを抜きます。

- ①ドレンホースからサビが混ざった水が出ます。ドレンホースの下に、ドレンを受けるためのトレイなどを置いてください。
- ②ドレンホースが動かないよう、手で保持してください。
- ③ドレンコックをゆっくりと開き、ドレンを抜いてください。



#### ⚠ 警告

- ・必ずドレンを抜く前にエアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。圧縮空気が入っている状態でドレンを抜くと、事故やけがの恐れがあります。
- ・使用後は毎回必ずドレンを排出してください。ドレン抜きを行わないと、エアタンク内に水が溜まり、それが圧縮空気と一緒にエアホースを通してエアツールに運ばれ、故障や錆の原因になります。
- ・ドレンを抜く場合は、顔をドレンコックに近づけないでください。タンク内の残圧やドレンの排出によって失明や耳を傷める恐れがあります。

#### ⚠ 注意

エアコックから圧縮空気を抜く場合は、空気吐出口にワンタッチカプラソケットが付いていないかお確かめください。ワンタッチカプラソケットが付いていると、エアコックを開いても圧縮空気は出てきません。その場合は、ワンタッチカプラソケットを外してからエアコックより圧縮空気を抜いてください。

# 点検

※「安全上のご注意」（P 3～P 6）をよくお読みの上、  
 ■付属品の確認 ■本体の点検  
 ■電源スイッチの確認

### 点検

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

#### ■付属品の確認

開梱後、次の物が揃っているか確認してください。

##### 付属品



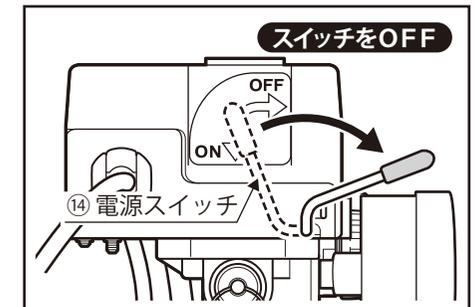
パイプシール  
(シールテープ)……1



Rc1/4 ワンタッチ  
カプラソケット……1

#### ■電源スイッチの確認

電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。ONになっている場合は、必ず差し込みプラグを電源に差し込む前に、電源スイッチをOFFにしてください。

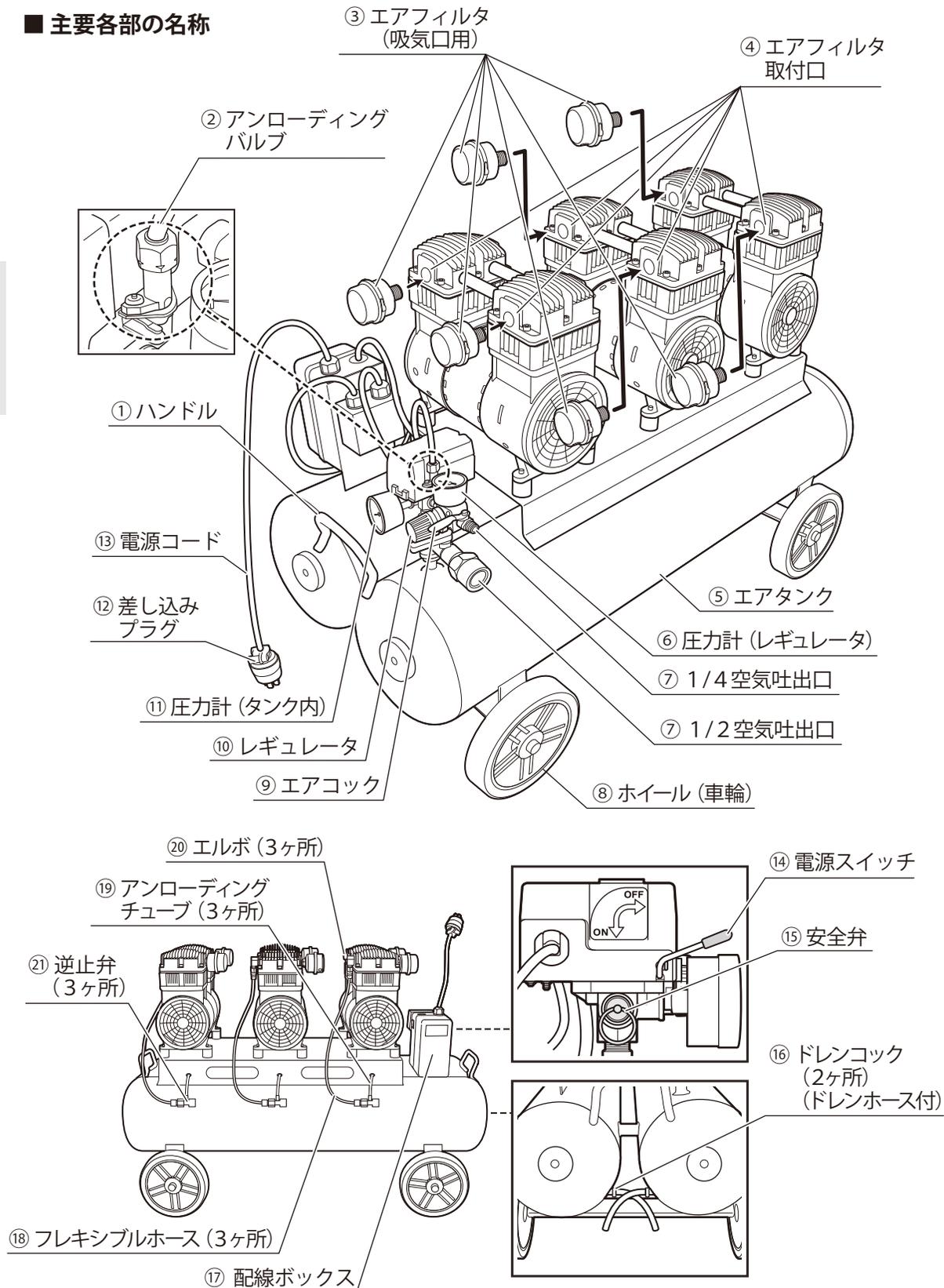


#### ■本体の点検

- ①タンクに亀裂・サビがないか確認  
 亀裂やサビは、事故・故障の原因となります。作業前に必ず、タンクにひびや亀裂、サビなどがないか確認してください。
- ②各部のボルト・ナットの締め付け点検  
 事故や故障の原因となりますので、各部のボルト・ナットやねじにゆるみがないか確認してください。

# 各部の名称

## ■ 主要各部の名称



# 作業を終了させる

- エアタンク内の圧縮空気を抜く
- エアホースを抜く

## 終了手順

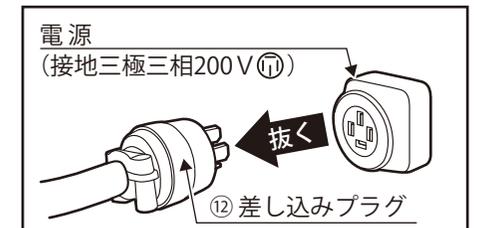
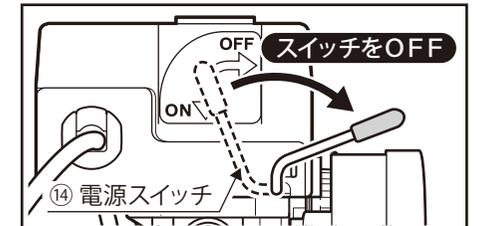
※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

### ■ エアタンク内の圧縮空気を抜く

※作業終了後、必ずエアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。

① 次の手順で電源を切ってください。

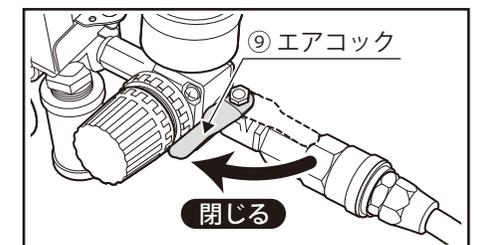
1. 電源スイッチをOFFにします。
2. 差し込みプラグを電源から抜きます。



② エアタンク内の圧縮空気を全て使い切り、エアコックを閉じてください。

### ⚠ 警告

エアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。

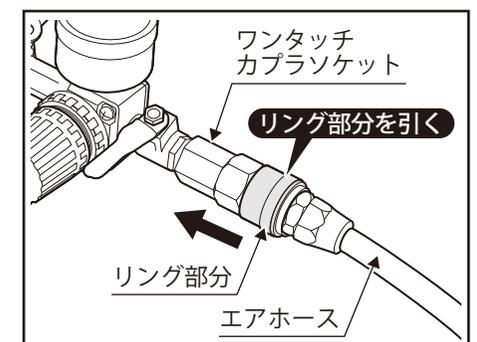


### ■ エアホースを抜く

ワンタッチカプラソケットのリング部分を引いて、エアホースを抜きます。

### ⚠ 警告

- エアホースを抜く前にエアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。
- エアホース内に残圧が残っていると圧縮空気のでエアホースが跳ね、けがや事故の恐れがあります。



# 使用する

- 2つの圧力計について
- レギュレータについて

## 使用するにあたって

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

### ■ 2つの圧力計について

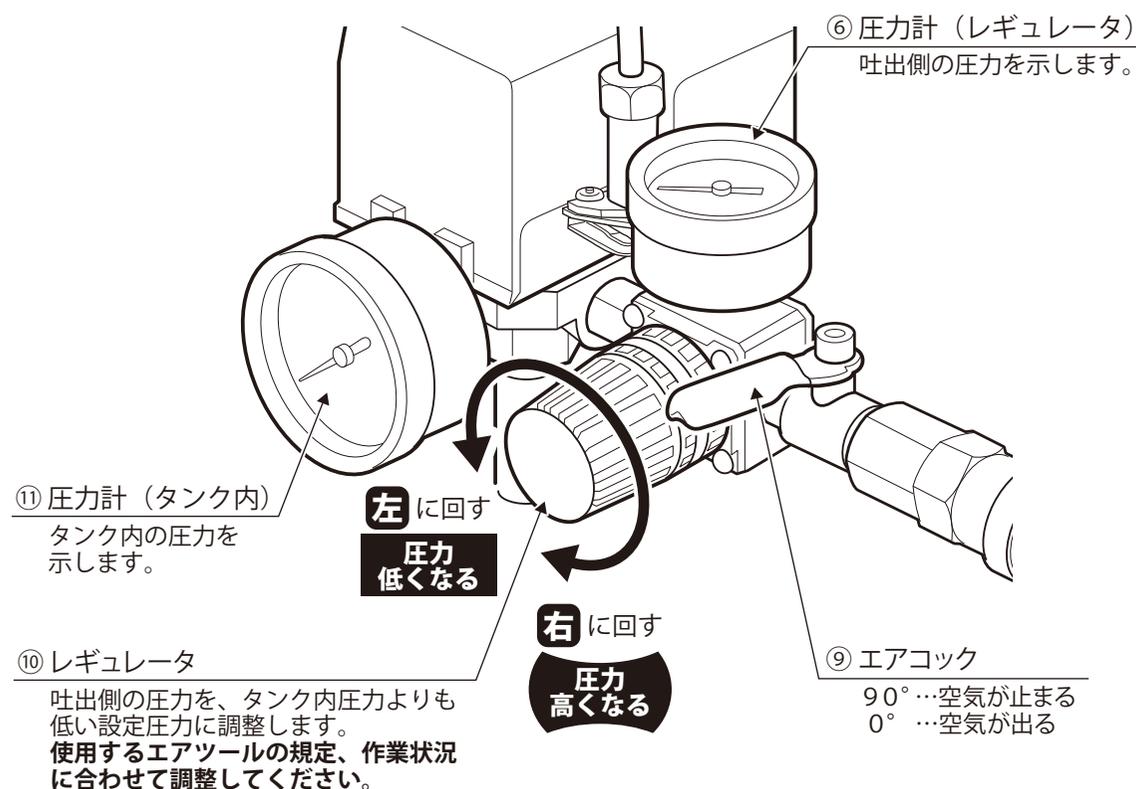
圧力計は「タンク内」用と、「レギュレータ」用の2つあります。下図を参考に、作業の目安としてください。

### ■ レギュレータについて

レギュレータは、吐出される圧縮空気の圧力を調整します。エアツールにはいろいろな種類がありますので、必ず使用するエアツールに応じ、指定された使用空気圧力の範囲内でご使用ください。

- ①エアコックが閉じていることを確認してください。
- ②圧力計（レギュレータ）を確認しながらレギュレータを回し、吐出圧力の調整を行ってください。

- ◎レギュレータを右に回す…吐出圧力が高くなる
- ◎レギュレータを左に回す…吐出圧力が低くなる



## ■ 主要各部の名称と機能

	名 称	機 能
①	ハンドル	本体移動の際に使用します。
②	アンローディングバルブ	電源スイッチと連動している部品です。 モータ停止後、シリンダとフレキシブルホース内に残ったエア（残圧）を排出します。 ※モータ停止後、5秒ほどエアの排出音がありますが、異常ではありません。
③	エアフィルタ（吸気口用）	吸入空気をろ過します。※取り付けの際は、 <u>シールテープは使用しないでください。</u>
④	エアフィルタ取付口	エアフィルタを取り付ける取付口です。
⑤	エアタンク	圧縮空気が貯蔵されるタンクです。
⑥	圧力計（レギュレータ）	吐出側の圧力を示します。
⑦	空気吐出口	圧縮空気が吐出されます。（1/4と1/2の2種類あります。） ※この取扱説明書では、1/4空気吐出口を例にして説明しています。
⑧	ホイール（車輪）	本体移動の際に使用します。
⑨	エアコック	1/4空気吐出口の開閉に使用します。
⑩	レギュレータ	吐出される圧縮空気の空気圧を調整します。
⑪	圧力計（タンク内）	エアタンク内の圧力を示します。
⑫	差し込みプラグ	差し込みプラグです。
⑬	電源コード	電源コードです。
⑭	電源スイッチ	電源のON/OFF操作をします。
⑮	安全弁	タンク内が異常高圧になった場合に作動し、タンク内圧力を減圧します。
⑯	ドレンコック	タンク内のドレンを抜く際に使用します。（2ヶ所・ドレンホース付）
⑰	配線ボックス	配線ボックスです。
⑱	フレキシブルホース	エルボと逆止弁をつなぎます。
⑲	アンローディングチューブ	逆止弁とアンローディングバルブをつなぎます。
⑳	エルボ	モータヘッドとフレキシブルホースをつなぎます。
㉑	逆止弁	タンクからのエアの逆流を止めます。

# 安全装置について

※本機には、安全を確保するため、次のような保護装置がついています。

- 安全弁
- サーモスタット

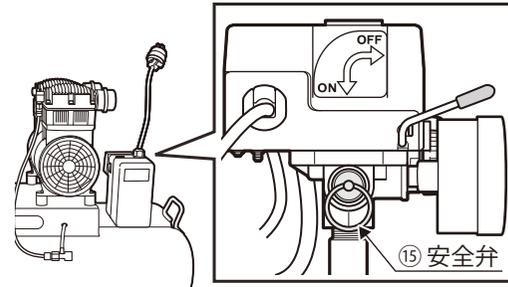
※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

## ■安全弁 タンク内が異常高圧になった場合に作動し、タンク内圧を下げます。

本機は電源スイッチにより、タンク内圧力が最高圧力まで達すると、自動的にモータの運転を停止します。

電源スイッチの故障などにより、タンク内が異常高圧になった場合、安全弁が作動し、タンク内圧力を減圧します。

この場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。



### ⚠警告

安全弁はオイルレスエアコンプレッサを安全にご使用いただくために取り付けてありますので、絶対に外さないでください。

### ◎定期的に作動確認を行ってください。

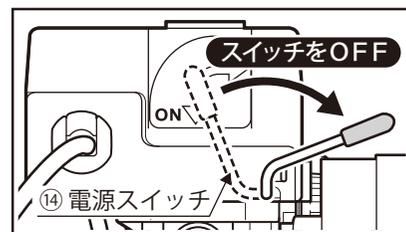
運転状態で安全弁のリングを引いて、圧縮空気が排出されることを確認してください。弁の動きがスムーズでない場合や、圧縮空気が排出されない場合は修理が必要です。お買い求めの販売店、または発売元にご連絡ください。

### ⚠警告

- ・安全弁の確認の際は、安全弁の付近に顔を近づけないでください。圧縮空気の排出によって、失明や耳を傷める恐れがあります。
- ・安全弁のリングを引くと大きな音が出ます。耳あてなどを着用してください。
- ・安全弁は過度に引かず、圧縮空気が排出されることを確認したらすぐに放してください。

## ■サーモスタット 本体の温度が過剰に上昇した場合に作動し、運転を停止させます。

本機にはサーモスタット（温度管理装置）がモータに内蔵されており、温度が過剰に上昇した際に、運転を停止させます。運転が停止した場合は、電源スイッチをOFFにしてください。



### ①原因の確認

サーモスタットが作動した原因を確認してください。

- 延長コードを使用している・または他の機器と電源を共有していませんか？
- エアタンク内に水が溜まっていませんか？ **P12**
- 作業場の温度が高すぎる・または壁面に近すぎる場所に設置していませんか？

上記の状態である場合は、その原因を取り除いてください。

原因が上記に無い場合は、お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。

### ②オイルレスエアコンプレッサの始動

本機の温度が十分に下がった事を確認し、電源をONにしてください。

タンク内圧力が約0.6 MP a以上ある場合は始動しませんので、エアコックを開いて圧縮空気を抜いてください。本機が始動します。

- 圧縮空気の抜き方 **P12**

# 使用する

## ■エアタンク内に圧縮空気を溜める

### 運転手順

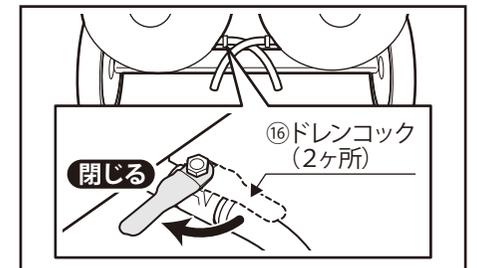
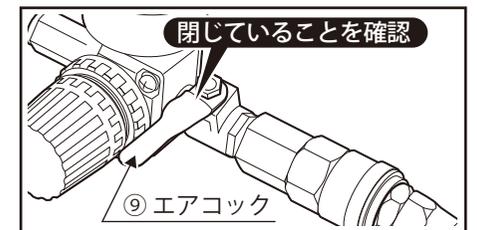
※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

毎回運転の前に、空気吐出口またはドレンコックを全開にして、3分程度の運転（無負荷運転）を行ってください。

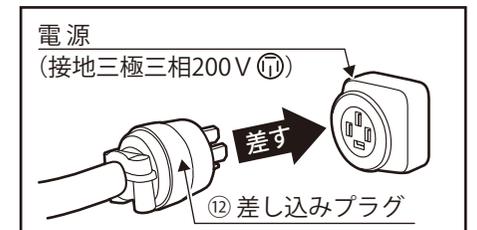
## ■エアタンク内に圧縮空気を溜める

使用するエアツールの取扱説明書に従い、エアホースにエアツールを接続してください。エアツールの接続が完了したら、圧縮空気をエアタンク内に溜めます。

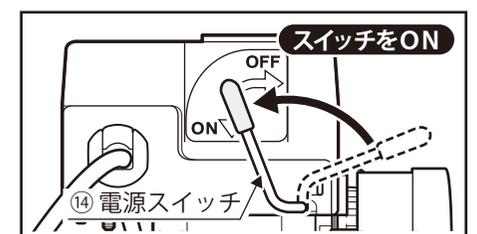
- ①エアコックとドレンコックが閉じていることを確認してください。



- ②差し込みプラグを電源（接地三極三相200V<sup>㉑</sup>）に差し込みます。



- ③電源スイッチをONにしてください。モータが作動し、圧縮空気を作り始めます。タンク内の圧力が約0.8 MP aになると、自動的にモータが停止します。



※これで全ての点検と準備が完了しました。エアコックを開き、使用するエアツールの取扱説明書に従って、作業を開始してください。

# ご使用前に

※付属品のワンタッチカプラソケットを取り付けます。  
エアコックを開じて作業を行ってください。

- 付属のワンタッチカプラソケットを取り付ける
- 市販のエアホースを取り付ける

## ワンタッチカプラソケットの取り付け

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

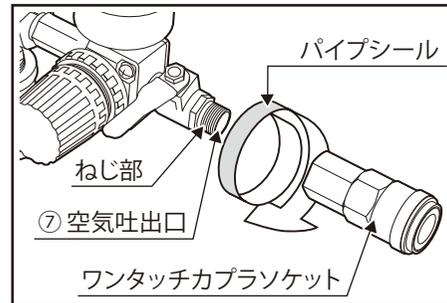
ワンタッチカプラソケットを取り付ける際は、エアタンクの中に圧縮空気が入っていないことを確認し、エアコックを閉じて作業を行ってください。

### ■ 付属品のワンタッチカプラソケットを取り付ける

- ① 付属品のパイプシール（シールテープ）をエアコックの空気吐出口のねじ部に、図の矢印の方向へ巻き付けてください。

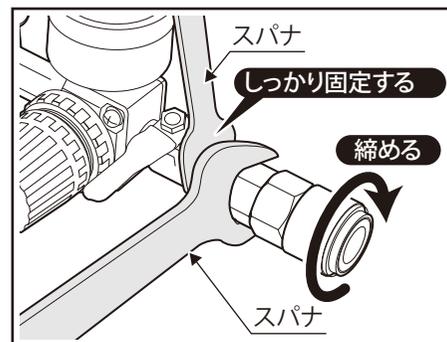
#### ⚠ 注意

- ・パイプシール（シールテープ）がないと、エア漏れの原因となりますので、必ずパイプシール（シールテープ）を空気吐出口のねじ部に巻いてから、ワンタッチカプラソケットを取り付けてください。
- ・空気吐出口にパイプシール（シールテープ）がかからないよう、注意して巻き付けてください。



- 矢印の方向に巻くこと。
- 空気吐出口にパイプシール（シールテープ）がかからないよう、注意すること。

- ② 付属品のワンタッチカプラソケットを、空気吐出口にスパナで取り付けます。エアコック側も別のスパナで固定し、しっかりと取り付けてください。

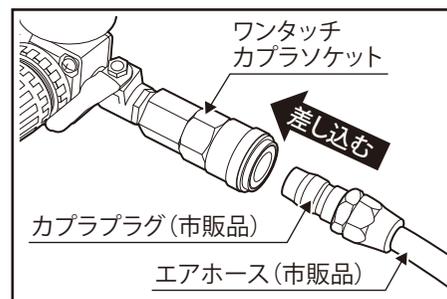


### ■ 市販のエアホースを取り付ける

エアホースのカプラプラグをワンタッチカプラソケットへ差し込んでください。しっかりと奥まで差し込み、ワンタッチカプラソケットのリング部分が手前へ出たら、接続完了です。カプラプラグを引いてみて、外れないことを確認してください。

#### ⚠ 注意

エアホースのカプラプラグは、確実にワンタッチカプラソケットへ接続してください。接続が完全でないと、事故やけがの恐れがあります。



## ■ サーキットブレーカ

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

### ■ サーキットブレーカ

本機はモータに無理がかかり、過負荷電流が生じた時にサーキットブレーカが作動し、停止します。

#### ⚠ 警告

サーキットブレーカ作動後は、電源スイッチをOFFにしてください。  
再起動した際に、不意な始動をする原因となり危険です。

#### ① サーキットブレーカの再起動

#### ⚠ 警告

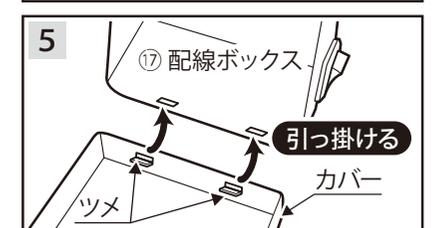
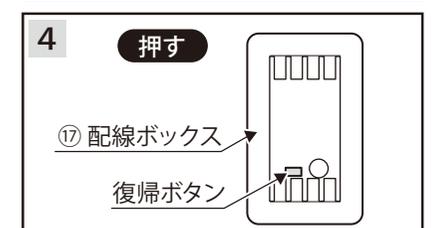
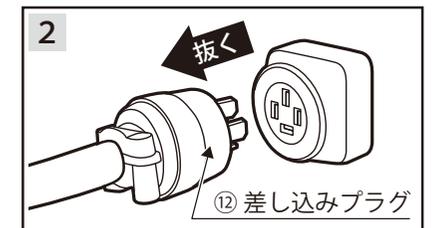
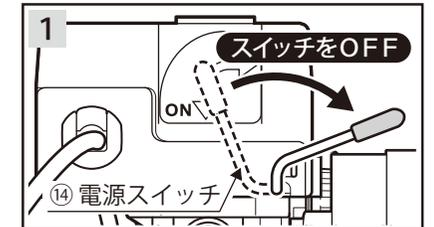
サーキットブレーカを復帰させる場合は、サーキットブレーカが作動してから3～5分間待ってから行ってください。

サーキットブレーカが作動した場合は、下記の手順で復帰作業を行ってください。

- 1 電源スイッチをOFFにします。
- 2 差し込みプラグを電源から抜き、3～5分お待ちください。
- 3 配線ボックス上部のねじをゆるめてカバーを開いてください。
- 4 復帰ボタンを押します。  
※この時、配線部には絶対に触れないでください。感電の恐れがあります。
- 5 カバーを元通り取り付けます。  
カバー下部のツメを配線ボックスに引っ掛けて閉め、上部をねじで固定してください。  
※事故を防ぐため、カバーは必ず取り付けで使用してください。

#### ② オイルレスエアコンプレッサの始動

- ・電源スイッチがONの状態状態でタンク内圧力が約0.6 MPa未満まで低下した場合はすぐに始動します。
- ・タンク内圧力が約0.6 MPa以上の場合は、電源スイッチをONにしても始動しません。約0.6 MPa未満になるまで圧縮空気を抜いてください。P12  
エアコンプレッサが始動します。



# ご使用前に

※本製品は梱包前に機能テストを行っています。本機にはテスト時の圧縮空気が残っている場合がありますので、ご使用前には必ず全て抜いてください。

- エアタンク内のエア（空気）を抜く
- エアタンク内のドレン（水）を抜く

## 準備

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

### ■エアタンク内のエア（空気）を抜く

検査用の圧縮空気が残っている場合がありますので、エアコックをゆっくり開いて圧縮空気を抜きます。

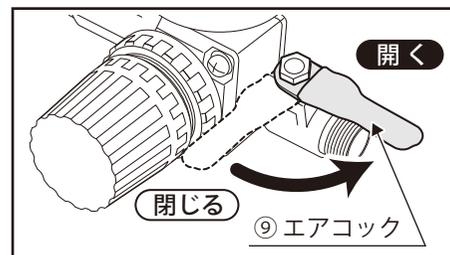
#### ⚠警告

圧縮空気を抜く際は、顔をエアコック付近に近づけないでください。けがの恐れがあります。

#### ⚠注意

エアコックから圧縮空気を抜く場合は、空気吐出口にワンタッチカプラソケットが付いていないかお確かめください。

ワンタッチカプラソケットが付いていると、エアコックを開いても圧縮空気は出ません。その場合は、ワンタッチカプラソケットを外してからエアコックを開き、空気吐出口より圧縮空気を抜いてください。



### ■エアタンク内のドレン（水）を抜く

エアタンクの下部に付いているドレンコック（2ヶ所）からドレンを抜きます。

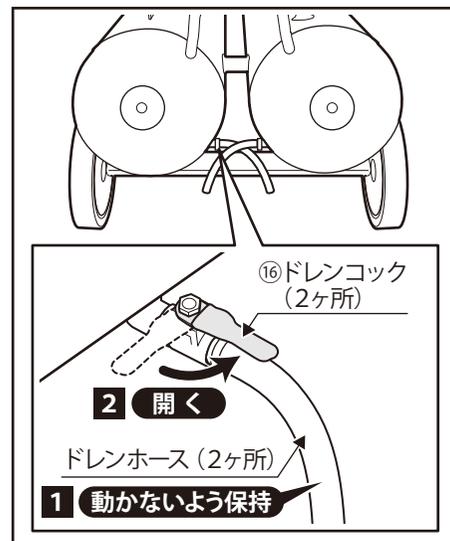
- ①ドレンホースからサビが混ざった水が出ます。ドレンホースの下に、ドレンを受けるためのトレイなどを置いてください。
- ②ドレンホースが動かないよう、手で保持してください。
- ③ドレンコックをゆっくりと開き、ドレンを抜いてください。

#### ⚠警告

- ・ドレンを抜く際は、顔をドレンコック付近に近づけないでください。けがの恐れがあります。
  - ・ドレンを抜く前に、必ずエアタンク内のエアを抜いてください。
- エアが入っている状態でドレンを抜くと、事故やけがの恐れがあります。

#### ⚠注意

- ・使用すると各エアタンク内にはドレンが溜まります。使用後は必ず各エアタンク内のドレンを抜いてください。



# ご使用前に

※電源を入れてモータの起動状況を確認してみましょう。

- 電源スイッチを入れ、再起動の確認

## 試運転

※各部名称、番号はP 7～9をご参照ください。

### ■電源スイッチを入れ、再起動の確認

①次の手順で電源を入れてください。

1. 差し込みプラグを電源（接地三極三相200V㉑）に差し込みます。
2. 電源スイッチをONにします。

モータが作動しエアタンク内に圧縮空気が送られます。この時、異常な音や振動がないことを確認してください。

圧縮空気が約0.8MPaになると、自動的にモータが止まります。

②エアコックを少し開きエアタンク内の圧縮空気を徐々に抜いてください。

エアタンク内の圧力が約0.6MPa未満に低下すると、モータが再起動します。

再起動が始まったらエアコックを再び閉じてください。

③次の手順で電源を切ってください。

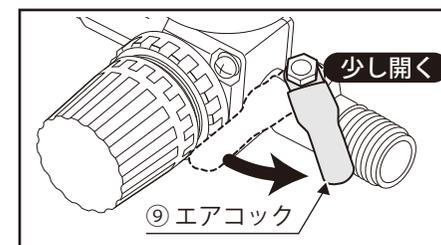
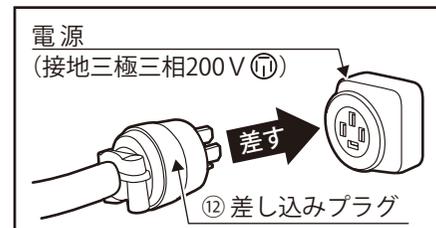
1. 電源スイッチをOFFにします。
2. 差し込みプラグを電源から抜きます。

④エアコックを開き、エアタンク内の圧縮空気を完全に抜いてください。

エアコックを開く際は、圧力計（レギュレータ）をご確認ください。  
圧力計が0になっている場合は、エアコックを開いてもエアが出ません。レギュレータのツマミを回して圧力を上げてください。P16

#### ⚠警告

圧縮空気を抜く時や、エアコック開放時は、顔をエアコック付近に近づけないでください。圧縮空気の排出によって、失明や耳を傷める恐れがあります。



#### ⚠警告

運転時・運転直後の金属部は高温になっています。やけどの恐れがありますので絶対に素手で触らないでください。

